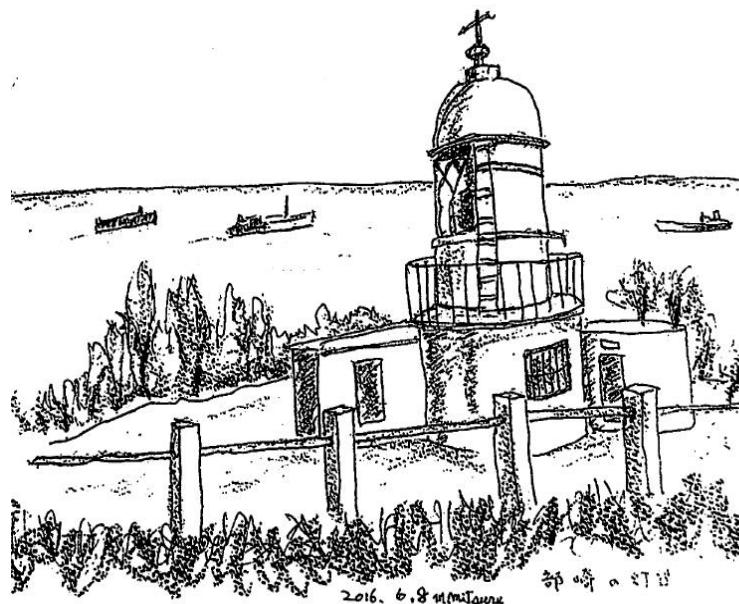


週報2021年6月13日



2021年教会標語聖句

見よ。わたしは新しい事をする。
今、もうそれが起ころうとしている。

イザヤ書4章19節

シオン教会信仰指標：“イエス様と共に歩む”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2021年6月13日

司会・奏楽・メッセージ 山崎銀次郎 牧師
(オンライン礼拝) HP アドレス：<http://jesus.holy.jp/>

祈祷	開会の祈り
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和
賛美	コーラス 27「あなただけがわれらの神」
祈祷	*今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！*
聖書朗読	エペソ人への手紙 2章 7-10 節
説教題	「神の恵みを恵みとして」
祈祷	御言葉の応答の祈り
祈祷	祝福と派遣の祈り

交わりの三省

- *互いに愛し合っていますか
- *互いに赦し合っていますか
- *互いに祈りあってますか

説教要約

エペソ 2 章 7-10 節 この恵みを恵みとして

①神の恵みの価値

新聖書辞典によると「恵み」とは「全く値なしの神の賜物である」と書いてあります。つまりこの世の何をもっても評価する事の出来ない、素晴らしい神様からのプレゼントと言う事です。ではパウロは神様から何をもらつたとエペソの人々に説明しているのでしょうか？それは神の一方的な恵みによる、救いです。

パウロが今日の箇所で(エペソ全体でも)強調している事は、「私達はイエス・キリストによって救われた存在である」と言う事です。これが神の恵みです。つまり、過ちと罪のゆえに死んでいた人間がイエス・キリストの死と復活によって、元の造った方、そして造られた者としての関係に戻されたと言う事です。パウロは別の書簡で「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。」(Ⅱコリ 5:17)と語っています。これらの事をパウロは要約して「私達は神の作品」と言っています。

今日の箇所を通じて私達が学ぶべきことは“神の恵みの価値”です。量る事の出来ない(全く値なし)ということは量る必要が無いことを意味します。アメイジンググレイスの作者ジョン・ニュートンが述べた「驚くばかりの恵み」とは、支払うことが出来ない過ちの代価(償い)が神によって支払われた事です。私達はこの恵みによってのみ救われます。神の恵みの価値を日々味わって参りましょう。

②神の作品としての恵み

一番目のポイントは“神の恵みとはキリストによる救い”と言う事です。そこでパウロはエペソの人々に神の恵みを繰り返し実感してもらうために、表現の方法を変えました。それが「私達は神の作品」だと言う事です。二番目のポイントは人間こそ神の恵の結晶、つまり最高傑作！と言う事です。

そしてこれは神の主権による作品と言う事を意味します。つまり違った

作品(存在)はいない、神様にとって唯一無二の存在だと言う事です。パウロはエペソの人々に「神の作品として收まりなさい」と勧めています。つまりこの言葉は自分を誇らない(9 節)事を意味します。神の作品としてただ愛を込めて造り出された存在(新しく造られた者)であることを誇りなさいとパウロは勧めています。

アダムとイブが神に離反して以来、人々は自分の価値を自分で推し量るようになりました。そして行いや功績によって誇るという基準を作ったのです。しかしこの価値基準の中では神の恵みを量る事はできません。人は行いによっては誰も義とされないからです。私達は神の恵みによって救われました。神が命をかけて救い出すほどに愛されている存在、それが私達です。恵みは量るもではありません。真っすぐ受け入れれるものです。神の恵みを受け入れ続ける者となりましょう。

③恵みの内を歩く

神の恵みの内を歩く。これはエペソ書のテーマと言っても過言ではありません。パウロは言い換えのスペシャリストです。パウロは5章8節で「光の子どもらしく歩きなさい」と言っています。そして今日の箇所で「良い行いに歩む」と言っています。これはつまり、神の作品として生きて行く事を意味します。

パウロは“行い”と“良い行い”的意味を明確に分けています。どちらも“生き方”を現わしていますが、前者は行いによって賞賛を集める生き方、そして後者は神に賞賛が集まる生き方です。つまり神の作品として生きると言う事は、恵みによって生かしている事を表す(証する)事です。そこにはもはや、他のものを誇りとする生き方はありません。

人生という作品を(より良く)作る事にこだわると、相手に対する関心が薄れ、本当の相手が見えなくなります。むしろ相手が何を作ったかでしか判断しなくなり、批判する事が増えます。私達の人生は作品を作ることではありません。神の作品である事を知る為の人生です。つまり救いの恵みの価値、私の本当の価値、そして相手の本当の価値を知る為の人生です。それが良い行いに歩むと言う事です。人生の出来・不出来の判断を神様にお返ししましょう。そして神の主権の選びの中、つまり愛と恵みの中で生かされる人生を信じる者となりましょう。